

自分の目の前で誰かが困っている時、助けを必要としている時、頭の中ではわかっているけど、実際はなかなか手をさしのべることができません。目の前で起こったハプニングと自分の体裁とを天秤にかけ、つい損得を考えてしまうからです。例えば友達が小さな消しゴムをほこりまみれのロッカーの後ろ側に落としてしまった時、自分はどうするでしょうか。がんばってロッカーと壁のすきまに手を入れて消しゴムを取ろうとする友達を遠くからながめるか、もしくは制服にほこりがつくのを承知で友達のために少しでも行動するか。

私はこういう場面に遭遇した時、いつもある言葉を思い出します。それは小学四年生の時。担任の先生がおっしゃった言葉です。

「手やこ洗やーきれいになるがー。」

先生が以前担任をしていたクラスのある女の子が言った言葉だそうです。ある日の給食の時間、彼女の目の前で汁物が入った器がひっくり返り、中身がすべて床にまき散らされるといったことがありました。クラス中がそのまき散らされた給食と、それをこぼしてしまった子を囲んでざわめいていました。こぼしてしまった子は動揺して動くことすらできません。時間だけが過ぎていく中、その女の子はすつと輪の中へ行き、素手で汁物をすくって、汁が入っていた器に戻し始めました。再びざわめく教室。そこへ担任の先生が入ってきて事情を理解した後、黙々と素手で作業をする彼女に言いました。

「ありがとう。でも素手だと手が汚れるけん雑巾使い？」

それに対して彼女は言いました。

「雑巾よりも手の方が速かる？ それに先生、手やこ洗やーきれいになるがー。」

先生はこの言葉を聞いた時、とても自分が情けなくなつた、とおっしゃっていました。自分よりも生徒のほうがよほどしっかりしている、と。

私はこの話を聞いた時、不思議とこの言葉がすとんと胸に入ってきました。標準語ではなく、方言だったこともあるかもしれませんが、何より、この言葉を言った女の子に強い憧れを抱いたからだと思います。困っている人に、何も言わずすつと手をかしてあげられる優しさと、自分の手が少し汚れるくらいならまた洗えばいいという強さ。並大抵の小学校高学年の女の子にはこんなこと真似できません。床にひざまずいて素手でこぼれた給食を片付けるくらいなら、まだ見て見ぬふりをしているほうがマシ。もちろん私もその状況に陥ったら、周囲に立ってただ傍観することしかできないと思います。私はこの話を聞いた時、私も彼女のように困っている人を少しでも助けられるような人になりたいと強く思ったのを覚えています。

その気持ちを抱いて五年、今でもまだ彼女の言葉、「手やこ洗やーきれいになるがー。」と、その精神は私の心の中に生き続けています。この五年間で私がどう変化し、実際に困っている人を助けることができたのかどうかは、自分ではわかりません。しかしこの言葉がなければ今の私はいないはずです。たとえ今までの五年間で私が彼女に近づいていなくても、あと五年後にはもう少し近づいて、彼女のような優しさと強

中学生の部[優秀賞]手をさしのべる

さを持った大人になりたいと思います。